



9/9 (Tue)
10:00-15:00

ESI ワークショップ 2025

変わりゆく環境に応える科学

～外来種対策・保護区導入・生物多様性モニタリングに関する研究開発～

概要 気候変動や生態系の改変に加え、社会経済情勢の不確実性が高まる中、環境課題への対応には科学と技術の連携がより一層求められています。本ワークショップでは、外来種対策・保護区導入・生物多様性モニタリングという三つの実践的な研究領域を取り上げ、これらを支える研究と技術革新の最前線を紹介します。

会場：OIST
センター棟 B 階 B250

プログラム
— 9月9日 —

10:00-11:10

セッション 1：外来種対策

先端科学によりヒアリなどの外来生物と戦う / 辻 瑞樹 (琉球大学)

地球規模での外来アリの拡散の追跡と予測 / Evan P Economo (OIST, メリーランド大学)

外来昆虫の化学的防除戦略～外来アリ類とツマアカスズメバチを事例として
/ 五箇 公一 (国立環境研究所)

11:10-11:55

セッション 2：保護区導入

保全効果を最大化する保護区設計：モデリングによるアプローチ / 高科 直 (東京大学)

日本の保護地域 / 若松 佳紀 (環境省沖縄奄美自然環境事務所)

13:30-14:40

セッション 3：モニタリング

OKEON 美ら森プロジェクトの概要 / 小笠 昌子 (OIST)

沖縄の生物多様性に関する音声モニタリング研究 / Samuel RPJ Ross (OIST)

高頻度モニタリングで探る昆虫群集の季節変動に対する土地利用変化の影響
/ Jamie M Kass (東北大学)

音声モニタリングとカエル類の検出 / Kosmas Deligkaris (OIST)

生物多様性モニタリングにおけるカメラトラップと AI を用いた種の自動判別技術
/ 赤坂 卓美 (帯広畜産大学)

生物多様性のその先へ—OKEON が示す次世代の生態学のかたち / David W Armitage (OIST)

日時 | 2025 年 9 月 9 日 (火) 10:00-15:00

参加費 | 無料

言語 | 日本語 + 英語 (日英同時通訳あり)

主催 | 沖縄科学技術大学院大学 (OIST) 環境科学・インフォマティクスセクション (ESI)